

3人のレンガ職人 ～「めあて」を考え抜く～

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

さて、昨日、全校生が当たり前のように登校し、始業式を迎えることができたことをありがたく思います。元気な姿で送り出していただいた保護者の皆様に、感謝申し上げます。

3学期の始業式に当たり、私は、「3人のレンガ職人」という寓話を話しました。

旅人が歩いていると、レンガを積んでいる一人の男に出会いました。旅人は尋ねました。

「何をしていますか。」

「レンガ積みだよ。」

「大変ですね。」

「そうだよ。でも、この仕事のおかげで俺は家族を養っているんだ。」

旅人は、その男に慰めの言葉を残して歩き続けました。

しばらく行くと、せっせとレンガを積んでいる別の男に出会いました。旅人は尋ねました。

「何をしていますか。」

「大きな塀を作っているんだよ。」

「大変ですね。」

「いやいや。俺は、世界一の技術を持ったレンガ職人を目指しているんだ。」

旅人は、その男に励ましの言葉を残して歩き続けました。

すると、今度は、楽しそうにレンガを積んでいる別の男に出会いました。旅人は尋ねました。

「何をしていますか。」

「教会を建てているんだよ。」

「大変ですね。」

「とんでもない。教会を建てて人の心を癒し、多くの人を救うんだ。」

旅人は、その男にお礼の言葉を残して歩き続けました。



旅人が出会った男たちは、いずれもレンガを積んでいました。違っていたのは、「レンガを積む」という行為を、どんなめあてで行っているかという点です。

初めの男は、生活費を稼ぐために、2番目の男は、塀づくりと併せて腕を磨くために、3番目の男は、教会を造って多くの人を救うために、レンガを積んでいました。

初めの男は、「生活費を稼ぐ」という当面の必要性を感じていますが、それならレンガ積みの仕事でなくてもできます。だから、レンガ積みを「大変だ」ととらえています。2番目の男には、塀を作る、あるいは、世界一の技術を身に付けるという目標があります。だから、レンガ積みの仕事を「せっせと」懸命に行うことができます。3番目の男は、教会を建て、多くの人を救うという目的を持っています。だから、レンガ積みの仕事を「楽しそうに」できるのです。

みなさんは、新しい年になって、何か「めあて」を立てたでしょうか。立てたのであれば、1番目の男のようにならなくてすみます。

そして、そのめあては、何のためのものなのかということを考え、目的がはっきりしたなら、3番目の男のように、生き生きと過ごすことができるでしょう。

1年間の締めくくりの3学期を、生き生きと過ごし、実り多いものにするために、ぜひ、自分で立てた「めあて」を大切にしてください。そして、その目的を考え抜いてください。

寓話をもとに、以上のように呼びかけました。当たり前のようにしていることでも、立ち止まって「何のためにしているのか」、「その価値はどのようなものなのか」ということを考え、発見することは、暮らしを輝かせるために大切だと考えています。「あいさつはなぜするのか」「そうじはどうしてするのか」「自主学习は何のためにしているのか」等を、子ども自身が考え抜き、意味づけるための支援を、ご家庭でもしていただけると幸いです。